

出張報告書

下関市議会議長殿

令和5年(2023年)9月25日

| | |
|---|---|
| <p>職氏名</p> <p>経済委員会</p> <p>委員長 恵良健一郎</p> <p>委員 関谷博</p> <p>委員 山下隆夫</p> <p>委員 田中義一</p> <p>委員 安岡克昌</p> <p>委員 本池涼子</p> <p>委員 桂誠</p> <p>担当書記</p> <p>庶務課庶務係長 新保仁志</p> <p>議事課主任 本田知徳</p> | <p>用務</p> <p>所管事務調査のため</p> <p>(1) 食と農のまちづくりの取組について</p> <p>(2) BOAT RACEとこなめ</p> |
| <p>期間</p> <p>令和5年7月3日から</p> <p>令和5年7月5日まで</p> | <p>出張先</p> <p>(1) 愛媛県今治市</p> <p>(2) 愛知県常滑市</p> |

調査事項・意見

経済委員会では、所管事務調査として、愛媛県今治市において、「地産地消」「食育」「有機農業」に加え、遺伝子組換え作物の安全確保と交雑の防止を柱とした、食と農のまちづくりの取組を視察した。また、愛知県常滑市において、ボートレース常滑の概要・取組等に加え、併設の「Moov i (モーヴィ)」及び「コミュニティパーク Grun (グルーン)」等について視察した。

[愛媛県今治市] 人口：158,114人 面積：419.7km²

愛媛県の北東部に位置し、瀬戸内海のほぼ中央部に突出した高縄半島の東半分を占める陸地部と、芸予諸島の南半分の島嶼部からなる。平成17年1月に越智郡11町村との合併により、松山市に次ぐ県下第2の都市となり、瀬戸内海の風光明媚な景観と、伊予水軍城址などの歴史遺産を誇る観光都市として、また、造船・海運都市としても将来が期待されている。

(1) 「食と農のまちづくりの取組について」

〔出席者〕

今治市議会 木村議長

今治市産業部農林水産課 渡部課長補佐

今治市教育政策局学校給食課 阿部課長

今治市教育政策局学校給食課 武田課長補佐

〔会場〕

今治市庁舎第1別館3階 議員協議会室

視察の冒頭に、今治市議会の木村議長より御挨拶をいただき、恵良委員長の答礼後、今治市農林水産課の渡部課長補佐、学校給食課の武田課長補佐の順に、それぞれ取組の概要説明を受け、その後、質疑応答を行った。

【概要】

〔これまでの経緯〕

昭和57年（1982年）1月の市長選挙において、学校給食センターの建替えが争点となり、大型給食調理場の建設を推進する当時の現職と、自校式調理場を推進する新人候補が争った。このとき地元農協や市民団体などの支援を受けた新人候補が当選したことが、現在の自校式での給食提供推進の端緒となっている。

昭和57年5月に開催された今治立花農協（現：JA今治立花）の総会において、地場産の野菜や有機野菜を学校給食に導入するよう市に要望する決議がなされ、総会后、市長へ要望がなされた。

昭和58年（1983年）4月、市立鳥生（とりう）小学校において学校調理場単独給食が開始されるとともに、地元産の農産物の優先使用を開始される。立花地区では学校給食に有機農産物の導入が開始される。

昭和63年（1988年）3月、市議会において、議員発議により「食糧の安全性と安定供給体勢を確立する都市宣言」が議決される。

平成11年（1999年）4月より、学校給食の米について、農薬や化学肥料を50パーセント以上削減した「特別栽培米」に切り替える。

平成13年（2001年）9月より、地元産の小麦を使用したパン給食が開始される。

平成14年（2002年）1月より、学校給食用豆腐の原料となる大豆を今治産に切り替える。

平成17年1月に、今治市と旧越智郡11町村と合併し、松山市に次ぐ県下第2位の都市（人口約18万人）となる。

平成18年（2006年）9月、「今治市食と農のまちづくり条例」が制定される。この条例では、「地産地消の推進」「食育の推進」「有機農業の振興」という3つの柱からなり、有機農業の推進と有機農産物の消費拡大を明確に位置付けるとともに、有機農業推進の障害となる遺伝子組み換え作物の栽培も規制している。

〔現状〕

市内21の調理場で、1日に1万2,000食～3,000食の供給を行っているとのことである。

地元産の食材使用率については5割強、県内産を合わせると6割強となっているおり、遺伝子組み換えと分かる食材についても使用していないとのこと。

J A今治立花管内の市立3小学校（立花、鳥生、吹揚の各小学校）では、野菜使用量のうち約3割が有機野菜であり、ほかにも大三島（おおみしま）などの島嶼部においても、移住者を中心に有機農業や自然農法に取り組む農家により、給食食材として有機野菜の提供が行われているとのことである。なお、市内全体では、重量ベースに換算すると4.1%とのことである。

特別栽培米については、ほぼ100%の使用率であるが、特別栽培米は一般的には割高であるため、学校給食今治産特別栽培米使用事業により、公費にて差額を補填しているとのことである。（令和5年度予算額：5,900千円）

今治産小麦を使用したパン給食については、今治市に適した品種を開発し、品種改良を重ね、現在では「せときらら」という品種の小麦を使用したパンを供給している。学校給食で供給されるコッペパンについては、今治産小麦100%で提供できているとのことであるが、こちらは学校給食用麦大豆生産振興事業（パン製造）により、外国産小麦を使用したパンとの差額を公費にて補填しているとのことである。（令和5年度予算額：4,056千円）

なお、今治産小麦の開発・使用により、今治市においてパン用小麦のマーケットが新たに生まれたという意味では、地産地消による経済循環（ローカルマーケット）の創出に大変意義深い取組であるとの評価をしているとのことである。

今治産大豆を使用した豆腐の提供については、遺伝子組み換えではない海外産の大豆から、地元産の「タマホマレ」という品種の大豆を使用した豆腐に切り替えている。重量ベースでは10%強を今治産の大豆で供給しているとのことである。こちらについても、学校給食用麦大豆生産振興事業（豆腐製造）により、外国産大豆を使用した豆腐との差額を公費にて補填している。（令和5年度予算額：240千円）

なお、現在、豆腐製造工場の火災により、操業を一時停止している状況であるが、近々の再開を見込んでいるとのことである。

給食費については、小学校220円から255円、中学校が250円から275円となっている。21の全調理場全てが学校給食システムでネットワーク化され、21調理場全てに栄養教諭、または学校栄養職員を配置させ、献立を作成している。

なお、献立について、市内で統一の献立とはしておらず、学校給食システムを活用する形でメニューの多様化を図っているとのことである。

学校給食における地元産品活用に向け、「今治市産ブランド給食リレー週間」と「日本一おいしい給食プロジェクト」の2つに取り組んでいるとのことである。

「今治市産ブランド給食リレー週間」は、令和元年度から、毎月第3週に1日ずつ、今治産の食材を使用した献立を調理場がリレーするもので、年間通して季節ごとの地

元の旬の食材を知ることができる機会を提供するものである。

「日本一おいしい給食プロジェクト」は、和洋中のほか、イタリアンの4つのジャンルについて、地元のプロシェフに加え、一般公募により選ばれたメニューを提供する取組を行っている。なお、一般公募では、小学生や高校生からも提案があり、実際に受賞もしているとのことである。

このほか、学校有機農園設置運営事業や市民農園での食農教育、さらには有機農業講習会として、初心者向けの農業講座を開催するなど、有機農業に関する意識の醸成が図られている。

取組の成果としては、子供たちの食への関心や、保護者による食への安全や、地元産の旬の食材、献立等への関心が高くなったことが挙げられるとのことである。

今後の課題としては、調理作業において時間と手間がかかることや、地元食材の安定供給、食材調達コストの問題などがあるとのことである。

【主な質疑応答】

Q：都市宣言をはじめ、条例の制定や各種計画を策定されているが、その実効性を担保するためには、予算の裏付けが必要と考える。一般会計における農林水産業費の割合はどのぐらいか。

A：令和5年度の当初予算でいけば、全体の3.1%である。

Q：取組の推進には生産者（主にJA）との関係性が大事だと思われるが、食と農のまちづくりを進める上で生産者側との意思疎通に問題はなかったか。

A：当初からの関係性について、状況は不明であるが、現在でも市とJAは定期的な連絡会をもっている。市長と組合長のレベルから、双方の部長レベルが出席するようなレベルまで、これまで定期的を開催しており、市側の計画とのすり合わせや情報の共有がなされていると思っている。

Q：特別栽培米や有機野菜の生産の調整は全てJAが行うものであると認識しているが、今治市ではどのような形で調整を行っているのか。

A：同じくJAを通じて調整を行っており、減農薬米の使用を例にとると、来年度の使用量を学校給食の担当課から農林水産の担当課に伝えられ、それをJAの生産調整担当に伝えているところである。

Q：生産者が、野菜などを調理場に直接持ち込んでいると伺ったが、下関市での説明によると、衛生管理基準の関係で直接持ち込みはハードルが高いとの認識を持っている。衛生管理基準について、どのようにクリアされたのか。

A：毎朝、新鮮な野菜を、きちんと洗浄した上で持ち込んでいただいております。衛生管理基準に沿った形で搬入できるようにしている。なお、調理場との間では、朝7時から7時30分間に納品するようお願いしている。

Q：今治市では、単独調理場でされているようであるが、給食センターのような大量に調理するところで、有機野菜の使用の取組は可能か。

A：今治市でも、栽培するロットが決まっているので、大きなところではやりにくいと思われる。

Q：JAと3か月先までの給食献立を協議しているとの話を聞いたが、JA側にはそのようなことを専門的に担当する職員がいるのか。

A：「さいさいきて屋」というJA直営の直売所に、そういったことを専門に担当する職員がいて、どの野菜がいつ旬を迎えるかといったところの情報を共有している。なお、市側にも、学校給食の担当課のほうに3名の管理栄養士がいるので、お互い相談をしながら取り組んでいる。

Q：有機農業の振興計画を2007年に策定していると思うが、有機農業の作付面積は増加しているのか。

A：今治市においても、有機農業の面積は1.9%に過ぎない状況であるが、以前、市長がオーガニックビレッジに積極的に取り組む姿勢を示したことから、今後、有機農業の実施計画を作るための協議を進めようと考えている。なお、大三島（おおみしま）などの島嶼部では、移住者が有機農業や自然農法に取り組んでいる状況があることから、その点が今のところはプラスの要因と考えている。

Q：特別栽培米の生産にあたり、生産者の方からの抵抗とかはなかったか。

A：栽培を始めた当時のことは不明であるが、令和2年のウンカ被害のときに、2つのJAさんの1つでは、特別栽培米の生産が困難ということで、生産をやめてしまったという経緯がある。今は残る1つのJA管内の農家さんでもっている。

Q：学校給食用小麦の生産体制はどのようになっているのか。

A：JA今治立花のほうで生産していただいているが、農業法人を立ち上げている。生産資材の導入にあたっては、市が購入費の一部を補助しているものと思われる。



【木村議長による歓迎あいさつ】



【恵良委員長による答礼】



【今治市担当者による説明】



【議場にて】

〔愛知県常滑市〕 人口：58,472人 面積：55.90km²

常滑市は、愛知県の南西部、知多半島西海岸の中央部に位置しており、伊勢湾沖の海上埋立地に中部国際空港（セントレア）が立地している。1000年の歴史を持つ常滑焼は、日本遺産認定の日本六古窯の中でも最古で最大とされ、近代以降も窯業を中心に発展し、伊奈製陶（現LIXIL）の創業地でもある。

（２）「BOAT RACEとこなめ」

〔出席者〕

常滑市議会 盛田議長

常滑市議会 相武事務局長

常滑市モーターボート競走事業 山口管理者 ほか

〔会場〕

ボートレースとこなめ2階 特別観覧施設 「6（ROKU（ろく））」

視察の冒頭、盛田議長より御挨拶をいただき、恵良委員長の答礼後、山口管理者から挨拶の後、各担当者よりボートレースとこなめの概要説明を受け、質疑応答、施設見学を行った。

【概要】

ボートレースとこなめでは、令和元年度から3年度までを期間として新設スタンドを建設しており、次の4つのコンセプトを基に整備を行っている。

1点目は「スタンドのコンパクト化」である。収容人員を5,200人から1,700人に縮小し、光熱水費や施設修繕費など固定経費の削減を図っている。

2点目は「新規ファンの獲得」である。お洒落で清潔感のある観覧席、高級感ある特別観覧席をはじめ、ファミリー向けのメニューを揃えたフードコートなど、これまで馴染みがなかった初心者や女性、ファミリー層にも1日楽しめる施設としている。

3点目は「地域との共生」である。特別観覧施設「6（ROKU（ろく））」や、トコタンホールなどを市民に開放している。

4点目は「強風対策」である。ボートレースとこなめは、1年のうち、12月から翌年5月までの約半年間、風速10m以上の強風によるレースの中止、順延が発生していたことから、競走水面の西側に高さ30mの防風ネットを設置。これにより、強風時でも安定したレース運営が可能になったとのことである。

新設スタンドの建設による運営経費は、新設スタンド建設後の令和4年度は、建設前の平成30年度と比較して92.6%となっている。経費のうち、旧スタンドの一部の継続利用及び電気、空調、給排水、エレベーター等の設備保守に係るものや、新型コロナウイルス感染予防対策に係るものについては増加しているが、光熱水費や清掃委託費などは、面積の減少などに伴い削減が図られているとのことである。

場外発売場の設置状況は、県外（宮城県柴田郡川崎町）及び県内の施設（ボートピア名古屋、ボートレースチケットショップミニボートピア栄）であり、売上げについ

てはほとんどの施設で減少している状況であるが、愛知県高浜市にあるボートレースチケットショップ高浜は、売上げを伸ばしている状況である。なお、全国初、空港島内に開設された「オラレセントレア」については、1日平均売上げが約17万円と、大変厳しい状況であるとのことである。

「M o o o v i」については、全国で5番目に開設され、「G r u u n」については、全国で初めて開設された施設である。M o o o v iは1人300円で利用することができ、「G r u u n」は、プログラム参加など一部有料であるが、基本的には無料で使用することができる。

なお、「M o o o v i」については、LINEを活用した予約もでき、5回予約すると1回分が無料となるサービスも行われている。また、近隣の保育園などへ無料券の配布も行われている。

「M o o o v i」については、令和5年5月27日に来場者10万人を達成しており、「G r u u n」についても、通年営業となった令和4年度に14万2,874人の利用があり、令和5年度も前年同月比で約7%増であるとのことである。

ギャンブル依存症の方に対する対策等については、他場と同様の取組（HPでの普及啓発や相談窓口の設置など）のほかは、独自の取組は行っていないとのことである。

今後の課題としては、効果的なイベントの開催や、「M o o o v i」や「G r u u n」において、ボーネルンド社と連携し、魅力ある企画・運営を行うことで、新規ファンを獲得するなど、本場への来場を促す取組が必要であるとのことである。

また、外向発売所「ウィンボとこなめ」について、要望が多かったキャッシュレス投票機の導入を行ったところであるが、売上額の向上のための施策が必要であるとのことである。

【主な質疑応答】

Q：フードコートでは、アルコールの提供は行っているか。

A：令和3年の新設スタンドオープン時からアルコールの提供を開始している。

Q：フードコートの運営状況や利用者からの評価はどうか。

A：運営状況については、新設スタンドオープン時の5店舗のうち2店舗は社会福祉協議会に継続して入ってもらっている。残りの3店舗については、新規のメニューの提案を条件に、公募により決定している。新規メニューについては、エビフライ定食やカルビ弁当など、ファミリー向けや若者向けのメニューがあるとのことである。

Q：アルコールの提供は好調か。提供によるトラブル等はないか。

A：提供している店舗では、いずれも販売は好調のようである。また、飲酒運転や泥酔者等によるトラブルは、今のところはない。

Q：県外への場外発売場の設置の経緯と、設置するにあたり調整する上で注意していることはあるか。

A：宮城県に設置している場外発売場については、過去の経緯は不明であるが、以前、売上げ状況が悪くなったときに、場外発売場の運営会社に全てを任せて現在に至

っている状況である。愛知県内の施設については、中央団体が主導して設置しているが、また高浜市の施設については、民間の会社主導で設置されている。設置にあたっての住民との折衝などもその会社が主導して行っているようである。

Q：セントレアにオラレを設置しているが、インバウンドの取り込みについてはどのような状況か。

A：空港内に設置した理由としては、インバウンドの取り込みもあるが、空港島内で働く人たちをターゲットにしたというのがある。ただ、いろんな企業に利用のお願いをしているが、なかなか立ち寄っていただけない状況である。

インバウンドの取り込みについてはなかなか続かないというのが現状である。ルールを理解してもらえれば来場者も増えると考えているが、その機会がなかなかないのが実情である。

Q：新設スタンドをダウンサイジングしたとのことであるが、それは来場者の現状に合わせて行ったということか。

A：平日の来場者は1,000人を切るようなときもあるが、グレードレース開催の際には、それなりに来場者が多い状況である。土日は1,200人、イベントがあると1,800人のときもあるので、現在の収容規模については、入場者数に近い形となっている状況である。

Q：ギャンブル依存症の関係で、窓口を設置しているとのことであるが、相談があった事例で何かあれば教えていただきたい。

A：ギャンブル依存症の方の親から、本場に入場できないようにしてほしいとの相談があったことから、該当者の入場制限を行った例がある。

Q：ギャンブル依存症の方に対し、電話投票での対応というのは何かされているか。

A：電話投票において何もできないというのが一番の悩みのタネである。チケットショップに行って、映像は見るけれども、そこで投票はせずに、電話投票をするようなケースがあるというのは認識している。今後、何らか変えていかなければいけないと思っている。

※質疑応答の後、本場内及び「Moovivi」、「Green」の各施設を見学した。

また、翌日（7月5日）は、中部国際空港内に設置されている「オラレセントレア」を視察した。



【盛田議長による歓迎挨拶】



【恵良委員長による答礼】



【山口モーターボート競走事業管理者より挨拶】



【山口管理者及び事業局職員による概要説明】



【1階トコタンホール】



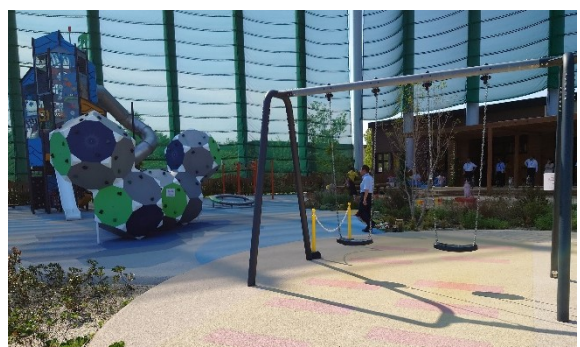
【売店のメニュー表（一部）】



【Moovi入口の券売機】



【Mooviの遊具と防風ネット】



【Mooviの遊具】



【Mooviの遊具と競走水面】



【Gruun入口外観】



【Gruunパークセンター前】

| 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 土曜日 | 日曜日 |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------------|---------------------------|-----------------------|-------------------------|--------------------------------|
| | 9:30-10:00 カッタ-3x3x3 | | | | 9:30-9:45 霞つて簡単ストレッチ | 9:15-9:45 adidas GYM&RUN |
| | | | | | | 9:45-10:15 ダンス コーディネーション |
| | | 10:30-11:10 親子遊学塾 ストレッチ | | | 10:30-11:10 笑顔に遊べ! | |
| 11:00-11:30 リラクゼーション | | | 11:00-11:15 霞つて簡単ストレッチ | | | 11:00-11:30 パルティ |
| | 11:30-12:10 笑顔に遊べ! | | 11:15-11:45 元気アップ体操 | | 11:30-12:00 ヨガ | |
| 12:00-12:30 遊学塾ストレッチ | | | | | | 12:00-12:30 笑顔エロ |
| 12:30-13:00 ヨガ | 12:30-13:15 ヨガ | | 12:30-13:00 みんなエクササイズ | | 12:30-13:00 お尻ストレッチ | |
| 13:15-13:45 元気アップ体操 | | | | 13:30-14:10 エアロビクス | 13:30-14:10 ZUMBA | 13:30-14:10 エアロビクス |

【Gruunパークセンターでのプログラム】



【Gruunオープンエアフィットネスの施設】



【Gruunゲームフィールドの施設】



【Moovi入口にて】



【中部国際空港内にあるオラレセントレア】